

事業名：平成18・19年度学力の把握に関する
研究指定校事業（社会科）

校名：広島市立安東小学校

所在地：広島市安佐南区安東一丁目28-1

H P：http://www.yasuhigashi-e.edu.city.hiroshima

教員数：20学級，602名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

研究テーマ

かわり，考え，高め合う子どもの育成

研究のねらい

本校は，平成15年度から3年間，社会科実践研究を重ね，平成17年度に第43回全国小学校社会科研究協議会研究大会の会場校として実践を公開した。

その中では，

1. 学習指導要領を基に単元の内容を構造化し，目標と内容を明確にして指導計画をたてること（内容構造図の設定）
2. 授業を行う際に学習活動やワークシートを工夫することで児童の思考を表出させ，個に応じた適切な支援を行えるようにすること
3. 教師は授業後に，目標を達成できたかどうか，それはどうしてかを構造図と照らし合わせながら振り返り，修正を行い，次時の授業を展開していくこと

の3点に重点を置いて取り組みを行った。

その結果，本校では多くの児童に問題解決的に社会科学習を進める力や自分で考える力が身に付くとともに，教師には社会科授業の単元全体を見通して展開する力が付いてきた。

一方，次のような課題も残った。

1. 児童一人一人が解決した結果を持ち寄り，学級全体で考え合い，高まり合う場面の一層の充実を図ること
2. 学級全体で考え合い，解決した結論が児童一人一人の中で知識として定着しているのかを見取る方法を設定していくこと

の2点である。この課題をふまえ，児童が相互に自分の考えを出し合い，高まっていくための指導方法とその結果としての実現状況を把握する方法を探ることをねらい，上記の研究テーマを設定した。

なお，本研究事業においては学力の把握が目的であることから主に2点目の課題に重点を置き，「思考の結果，得られた知識」を把握するためにはどのような方法（評価ワークシートの開発・その見取り方）が考えられるのかを明らかにすることを研究の主なねらいとした。

(2) 研究組織・体制（省略）

(3) 研究内容

まず，本研究の対象が「思考の結果，得られた知識」であることから「社会的な思考・判断」「社会的事象についての知識・理解」の2観点に主眼を置き，各単元にあわせた具体的な評価規準・判断基準を設定した。

次にその規準に照らして実現状況を把握するための評価ワークシートを開発し，単元終末に使用した。

最後に，記入された評価ワークシートを分析し，分類を行

うことで実現状況を把握した。

なお，この2年間，本校で行った単元と開発した評価ワークシートは次の通りである。

学年	年度	上段：単元名，下段：ワークシートのタイプ
3	18	「学校のまわりのようす」 パンフレットのキャッチフレーズ
	19	「安全なくらしを守る」 選択肢とその理由
4	18	「けんこうなくらしを守る」 看板の呼びかけ文
	19	「くらしのうつりかわり」 選択肢とその理由
5	18	「わたしたちの国土と環境」 森林税のネーミング
6	18	「世界に歩みだした日本」 関連図
	19	「世界に歩みだした日本」 イラスト関連図

2 授業改善の視点

ここでは評価方法の改善の視点について述べる。

従来，単元の終末に「わかったこと」について作文形式でまとめる活動はよく見られたが，文章のみで表現するタイプのワークシートでは，表現された内容が文章力に左右されることが多かった。そこで，社会科の学習で身に付けた学力を図るために，文章のみに頼らない絵・図・短い言葉などにより表現できるタイプの評価ワークシートを開発した。

また，児童にとっていきなり作文を書くと感じるような唐突な活動にならないよう，学習の流れの中で必然性のあるワークシートを開発した。

さらに，評価ワークシートでは見取り方によって判断が異なってしまう恐れがあるため，それを防ぐために判断基準（ルーブリック）をマトリックス形式にまとめ，学年内の教研間で共通認識を図った。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

このような評価ワークシートを用いることにより，単元全体で学んだ地域像や時代像，社会の仕組みといった大きな学習内容をイメージ化して端的に表現できる良さが明らかとなった。

今まで，「思考の結果，得られた知識」を見取る方法は，単元最後の考え，話し合う場面だけであったため，話し合いの場で活躍できる児童の実現状況はわかりやすくても，話すことが苦手な児童については評価できる場面がほとんどなかった。

文章で書く，話すといった表現，図や短い言葉での表現など，その子なりの方法で学習成果をまとめ，満足感を得ることができたのではないかと考えている。そして，教師にとっても児童の学習成果を見取りやすくなった。

(2) 課題

教研間の評価の「ずれ」を防ぐために，マトリックスの設定を試みたが，縦軸と横軸の指標の設定が難しく，納得のい

くものが作成できなかった。作成したマトリックスについては妥当性の検証が必要である。

(3) 今後の改善策等

誰もが納得して使えるマトリックスの作成について研究を続けていく。また、調べた事象をカードなどに表し、それら进行操作しながら自分の思考を作り上げていく方法も開発していきたい。

4 実践事例

(1) 学年 第5学年, 教科 社会科

(2) 単元の紹介

単元名 わたしたちの国土と環境

~「ひろしまの森づくり県民税」スタート!~

単元の目標

森林資源の働きについて理解できるようにし、環境保全の重要性について関心を深めるようにするとともに、国土に対する愛着を育てるようにする。
森林資源の働きを地図、その他の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調査し、調べたことを表現するとともに、環境が生活や産業と密接に関連していることを考えるようにする。

単元の展開(指導計画) 全13時間

主な学習活動・内容	
で	2学期までの産業学習(水産業)を想起する。国土というものがあり、その位置や他国との境があることを知る。【関・意・態】 日本地図を描く作業を通して、日本列島の形の特徴に気付く。【知・理】 資料の読み取りや白地図の色塗り作業から、日本の地形や土地の様子を調べる。【技・表】
あ	国土、県土の大半が森林であるにもかかわらず、4月から「ひろしまの森づくり県民税」が導入されることを知り、気付きや疑問を出し合う。【関・意・態】 各自の疑問を出し合い、学習問題を設定する。学習問題に対する予想をたてる。【思・判】
う	なぜ、みんなの税金をかけてまで森林を守らなくてはならないのだろう。 自分がたてた予想を確かめるため、調べることをはっきりさせるために、友だちのアドバイスを参考にしながら調べ問題・調べ計画をたてる。【思・判】
ふ	図書資料やインターネット等を活用し、「森林にはどのような働きがあるのか」「どのような手入れが必要なのか」等の調べ問題を個人で解決する。【関・意・態】【技・表】【知・理】【思・判】 調べてわかったことを根拠にして、自分の結論をレポートにまとめる。【技・表】 調べたことをもとに学習問題について話し合い、森林は所有者だけでなく、みんなに影響のあるものであること(森林の公益性)に気付く。【思・判】
り	前時で思考した結果得た知識を活用して、県民に税金の意図が伝わるような税金名を考え、表現する。【知・理】【関・意・態】
か	森林についての評価問題(市販ペーパーテスト)を解く。【知・理】【技・表】

単元の具体的評価規準(一部抜粋)

社会的な思考・判断	森林の働きについて問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決している。 調べたことをもとに、森林の保護育成に努めていることなどを考え、適切に判断している。
社会的事象についての知識・理解	国土の位置や地形、国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働きが分かっている。 森林は生活・産業と密接に関連しており、その公益性が分かっている。

(3) 評価方法改善のポイント

学び取ったことを活用して、なぜ、みんなの税金をかけてまで森林を守らなくてはならないのか、その理由が県民に伝わるような税金名を考え、名付けた理由を表現した。

また、単元導入部で提示されたポスターと同様のワークシートを用いることで、学習の中での必然性をねらった。

その上で縦軸を方法(他の児童の意見等と関連・統合がされているかどうか)、横軸を内容(生活と産業両方もしくは片方との結びつきが盛り込まれているかどうか)にしたマトリックスを設定し、見取った。

《 使用した評価ワークシート 》



(4) 児童の様子

第11時での話し合いで、森林の働きや手入れの仕方に加え、その公益性についても学んだ児童の多くは、第12時の評価ワークシートで、森林は生活や産業のどちらにとっても必要な存在であることを楽しみながら表現することができた。ペーパーテスト等とあわせ評価した結果、97%の児童が目標(A・B基準)を達成することができた。第1時で、2学期までに扱った産業学習とのつながりを意図的に取り上げたことも有効であったのではないかと考えている。

なお、評価ワークシートには「生活と産業を守ろう税」というものや「緑のヒーローの力を發揮させよう税」という記述例が見られた。

(5) 成果と課題

本事例では単元の中での必然性をもたせながら、学んだことを見取ることができる評価ワークシートを開発することができた。そして、児童のウイットをも含めた多様な表現方法を教師が見取ろうとする姿勢が大切であることも改めて確認することができた。

一方、作成したマトリックスの縦軸と横軸の取り方など、妥当性に疑問が残りに、課題となった。